

NPO法人東京高次脳機能障害協議会—http://www.brain-tkk.com/

| T | K | K | メ | ル | マ | ガ | vol. 3

TKK主催「高次脳機能障害者のためのボランティア(支援者)養成講座」を5月25日に開催します。

～目次～

- 1. TKK活動
- 2. 関連団体の活動
- 3. 行政等の活動
- 4. TKK役員より

【1】TKK活動

\*\*

●第2回東京都高次脳機能障害者実態調査検討委員会

- 3月14日(金)夕、都庁第一本庁舎  
 議事内容：(1) 本人調査の集計結果報告と分析  
 (2) 医療機関調査の概要報告  
 (3) 障害者数の推計方法の確定

●第1回東部(墨田区, 江戸川区, 江東区)高次脳機能障害者支援地域ネットワーク連絡会

- 3月17日(月) 夜 於：東京都リハビリテーション  
 議題：(1) 東京都における高次脳機能障害支援普及事業  
 (2) 東京都リハビリテーション病院における高次脳機能障害に関する取り組み  
 (3) 各医療機関・各自治体等における取り組み状況  
 (4) 各出席者からの質疑、意見交換及び今後の取り組み等

●厚労省障害保険福祉部 宮元課長補佐、川田係長との面談：3月24日午後

NPO法人認可の挨拶のために訪問し、意見交換をしました

●TKK「理事会」：3月24日午後

- ・今年度の最終理事会を開催し、平成20年4月からの来年度予算及び事業計画を検討しました。
- ・来年度は日本財団様、そして新たにキリン福祉財団様の支援を受けて、事業を展開します。

○第3回東京都高次脳機能障害者実態調査検討委員会：3月28日(金)夕、都庁第一本庁舎

- 議題 (1) 医療機関調査の集計結果報告と分析  
 (2) 今後の高次脳機能障害者支援のあり方

○「高次脳機能障害者のためのボランティア(支援者)養成講座—1—」を開催

- ～高次脳機能障害を理解し、支えたい、支援したいという方々が対象、参加費：無料  
 5月25日 9:50～16:30 於：東京都心身障害者福祉センター  
 講師：中島恵子氏、斉藤和夫氏、斉藤裕美子氏、広実真弓氏他  
 助成：キリン福祉財団様  
 申し込み： FAX：03-3200-8970 (太田宛) 、締め切り5月20日  
 問い合わせ： TEL：03-3408-3798 (細見宛)

- NPO法人TKK設立記念 高次脳機能障害シンポジウム「いま、ほしい！ 支援を実現するために」の開催 7月6日（日）、日本財団ビル、助成：日本財団  
シンポジウム13：00～16：45、懇親会17：30～19：30  
対象：行政・医療・福祉の専門家や支援者、及び当事者とその家族、関係者  
基調講演1「スウェーデン福祉と脳損傷者支援」  
基調講演2「東京都の現状から考えること」  
ディスカッション「いま、ほしい！ 高次脳機能障害者支援」  
講師：グスタフ・ストランデル氏、渡邊 修氏、  
コーディネーター：赤塚光子氏  
パネリスト：グスタフ・ストランデル氏、渡邊 修氏、今井雅子氏、田辺和子氏、細見みゆ氏

---

## 【2】関連団体等の活動

∞ \*\* ∞

- 【セミナー】 脳損傷者の地域生活支援の可能性：3月22日（土）午後  
主催/NPO法人全国障害者生活支援研究会（通称：サポート研）、後援/TKK  
[ニュージーランドにおける脳損傷者の地域支援システム]についての調査報告がありました。
  - 【サロン】  
調布ドリームの「ドリームサロン～高次脳機能障害を、知ろう、語ろう、もっと身近に」  
：3月23日（日）午後 17名の当事者、家族、支援者が参加しました
- 【視察研修】 オーストラリア訪問8日間  
－脳損傷・高次脳機能障害者のケアシステムに学ぶ、5月17日～24日  
申し込み締め切り：4月17日  
詳細は→[http://www.brain-tkk.com/index/show\\_information.php?boardAct=view&readNum=7](http://www.brain-tkk.com/index/show_information.php?boardAct=view&readNum=7)

---

## 【3】行政等の活動・メディアの報道

∞ \*\* ∞

- 「平成19年度 高次脳機能障害支援普及事業 第2回支援拠点機関等全国連絡協議会」  
及び「第2回厚労科研費 地域支援ネットワークの構築に関する全体会議」  
：2月29日（金）終日、三田共用会議所  
この会議の中で、当協会の今井・田辺両副理事長が、シンポジウム（監）「当事者の家族の立場から」で講演しました
- 毎日新聞地方版（宮城）、「別人になった夫」の表題で高次脳機能障害が連載されました  
詳しくは →  
<http://mainichi.jp/area/miyagi/news/20080320dd1k04040409000c.html>  
<http://mainichi.jp/area/miyagi/news/20080320dd1k04040410000c.html>  
<http://mainichi.jp/area/miyagi/news/20080321dd1k04040242000c.html>  
<http://mainichi.jp/area/miyagi/news/20080322dd1k04040142000c.html>  
<http://mainichi.jp/area/miyagi/news/20080324dd1k04040343000c.html>

**「脳損傷者支援組織の10年目は」****副理事長 田辺和子**

TKKは、昨年、シンポジウムに向かって動き出したころから急に忙しくなりましたね。後半は、シンポジウムとNPO法人化が同時進行となりましたから大変でした。でも、そのような活動を通してTKKの人材の多士済々ぶりが見られて、仲間たちながらすごいなと感心しています。

私は、一昨年に、NPO法人全国障害者生活支援研究会（通称・サポート研）のオーストラリア（クイーンズランド州）、昨年はニュージーランド（オークランド周辺）の脳損傷事情の調査に参加しました。

オーストラリアのBIAQ、ニュージーランドのBIAA、どちらも家族たちが支援組織を立ち上げ、設立10年頃の組織再編以降、飛躍的な成長を遂げたということでした。再編の時期は共通していますが、組織の性格はかなり異なっています。

BIAQはビジネス界から人材を得て、企業的な戦略を力に行政から資金を勝ち取り先進的な事業を創りだしてきました。BIAAの方は、25年をすぎた今も、創設からの家族たちがアドボカシーを中心に脳損傷者支援事業を続ける一方、直接的な当事者支援については、BIAAから生まれ現在は独立した組織となったスチュワートセンターが、各地でリハビリテーションや日中活動を展開していました。

両組織とも、脳損傷者の権利を守ること、地域生活を支援することを目的としていますが、支援の考え方には異なるところもありました。

BIAQでは、「当事者と家族の問題を一緒にすべきではない。当事者を支援することで当事者が回復していけば、家族のニーズは減少する」という考え方。また、BIAAという組織のこれ以上の拡大は狙わず、BIAAの当事者支援をサービス業者に研修などで伝えていくことにより、脳損傷者支援を広げていくという手法でした。

一方、BIAAは、「家族ぐるみの支援」ということに重点を置いているのが特徴的でした。

マオリ族の人たちなど、三世代四世代同居というような家族環境、生活習慣の人たちも多いところからそのような土壌があるようです。介護家族を支えるという方針は公的な制度（ACCという事故保障の制度など）にも生きていて、障害をもつ子どもを見るために親の手がとられるならば、療育が必要なほかの子どもも制度として支援するようになっているのだそうです。

TKKは任意団体の発足から数えてまもなく5年になりますが、加盟団体の中にはそろそろ設立10年という会があります。BIAA、BIAQのことを思い浮かべ、今この時がわが国の当事者/家族組織の成立10年目であるならば、確かにTKKは今、脱皮しようとしている、と海を越えた2つの組織を思い浮かべる今日この頃です。我々が目指す支援はどのような形であるのか、それを考えるNPO設立後初のシンポジウム（スウェーデンの先進社会福祉から学ぶ：7月6日開催予定）の準備も始まりました。

===== 2008. 3. 27 以上